

10th

市政だより特集号 2014.10.1



ながおか

中越大震災から10年

忘れなさい、

明日のために。

復興10年 たくましく前へ、長岡

感謝の想い、さらなる復興へ向け

全国の被災地へ 希望の光を届けたい

かけがえない多くのものを一瞬にして奪い、深い傷跡を私たちのふるさとに残した新潟県中越大地震。長岡市では、28名の尊い命が失われ、かつて体験したことのない大きな揺れに崩落する山々、割れる田畑、寸断されたライフライン…。私たちは、自然が持つ強大な力を思い知らされました。あれから10年。助け合い、励まし合いながら、幾多の困難を乗り越えてきた「市民の力」は、自然の力に負けないくらいに大きく感じています。

全国からの支援に感謝

地震発生直後から数え切れないほどの応援や心温まる激励をいただき、感謝で感謝の言葉もあります。

全国から訪れたNPO団体やボランティアとの出会いにも恵まれました。たくさんの方の絆が生まれ、実りある交流として根を下ろしています。外との交流を通じて、

先人から受け継がれてきた伝統や文化、美しい自然や助け合いの精神が、長岡の大切な宝物であることも私たちに気付かせてくれました。

「市民力」による復興

中山間地域を支えるNPOや市民グループ、地域復興支援員の活動が展開され、共助で支え合う元気なコミュニティも誕生しました。

長岡市の復興は、「帰ろう山古志へ！」というスローガンや「震災復興祈願花火フェニックス」の打ち上げに象徴されるように、ふるさとを想う住民の強い気持ちが生力となり、市民自らの力によって成し遂げられた復興だと確信しています。

さらなる復興への決意

復興10年の節目にあたり、支援への感謝、復興への誓い、明日への希望、それぞれの想いを込め、さらなる復興へ向け邁進してまいります。私たちの経験や教訓が、東北をはじめ災害に見舞われた全国の被災地の役に立てるよう力を尽くし、ここに決意を新たにします。忘れぬ、明日のために。子どもたちの未来のために。

長岡市長 森 氏夫



忘れない、明日のために。
復興10年 たくましく前へ、長岡

目次

- 2 市長メッセージ
- 4 中越大震災 被害状況
- 6 復興への道
10年の歩み／インタビュー
- 14 そのさきの未来へ
- 16 10月復興イベント フェニックスプロジェクト

男の子が奇跡的に救出された
2人の尊い命が失われた
妙見町の土砂崩れ現場
(写真:東京消防庁撮影)

崩れた山々



牛舎下の斜面が崩落 (山古志南平) 地域内では多くの牛も犠牲に

羽黒トンネル桂谷側で大規模な地すべり (山古志)



脱線した上越新幹線の車両



被害の大きかった高町団地

大地が震え、割れた

市内のいたるところで道路に亀裂・陥没



忘れない、明日のために。
復興10年 たくましく前へ、長岡

巨大地震発生。

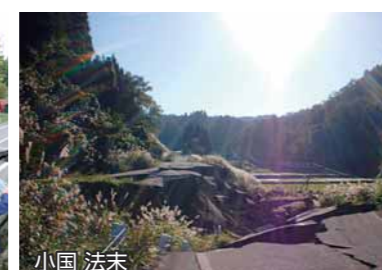
平成16年10月23日(土) 17時56分

崩壊寸断支援の手

道が消えた



栃尾 本津川



小国 法末



大量の土砂が川をせき止め、天然ダムが発生 (山古志木籠)

突然奪われた日常



家の地盤が大きく沈下 (東片貝町)

救助避難 全国から支援



自衛隊の協力で一時帰村 (山古志檜木)



最高時で6万4千人が避難生活



余震の恐怖から車やテントで夜を過ごす (旧田麦山小避難所)



孤立集落から自衛隊ヘリで救出



心が癒やされたボランティアによる炊き出し



県外からも多数のボランティア



全国から届いた多数の救援物資 (旧長岡市役所庁舎)

各地域に甚大な被害 主な被害状況

		長岡	中之島	越路	三島	山古志	小国	和島	栃尾	与板	寺泊	川口	計
人的被害	死者	12	0	3	0	5	1	0	1	0	0	6	28
	負傷者	2,108	18	93	8	25	24	3	92	4	1	62	2,438
建物被害	全壊	927	0	152	3	339	125	0	45	0	0	606	2,197
	大規模半壊	919	2	129	0	74	124	0	60	1	2	146	1,457
	半壊	4,954	24	705	25	223	520	0	240	5	12	344	7,052
その他被害	一部損壊	42,681	2,573	2,660	1,677	111	1,173	305	5,781	995	586	297	58,839
	道路・河川等	4,543	26	105	4	213	256	86	122	0	39	236	5,630
	林道・農道等	404	7	221	0	182	66	0	175	0	1	37	1,093
	農地	195	12	183	0	525	16	20	276	2	0	128	1,357
農業施設	2,397	26	115	0	1,752	64	37	291	0	1	104	4,787	
避難者数 (最高時)	人	50,100	959	2,922	560	(2,167)	1,803	77	2,082	335	81	5,692	64,611
火災発生 (震災発災時)	件	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	7

※山古志村の全村避難2,167人を含む

天井材が落下した市民体育館 (学校町)



救急車の隊列 (栃尾地域)

M 6.8、最大震度7の激震



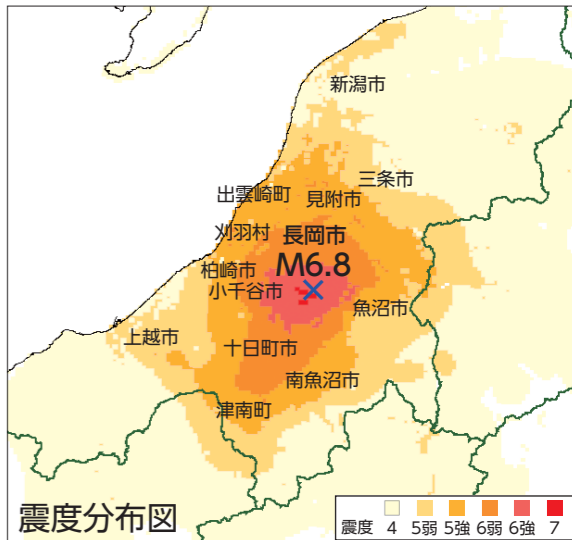
激震が襲った川口地域



震災直後の災害対策本部会議 (旧長岡市消防本部)

■各地の震度 (本震)	
震度7	川口
震度6強	山古志、小国
震度6弱	長岡、栃尾、三島、越路
震度5強	中之島、与板、和島
震度4	寺泊

■長期間続いた余震
同日18時11分、18時34分には最大震度6強の余震。本震から1年間で震度5以上の余震は18回、震度1以上は960回にも及びました。



震度分布図
震度 4 5弱 5強 6弱 6強 7
出典：気象庁ホームページ「推計震度分布図【平成16年(2004年)新潟県中越地震】2004年10月23日17時56分 新潟県中越地方 M6.8」もとに作成

震災をバネに、一歩ずつ歩んできた

復興への道 10年

支援に感謝。 全力復旧

平成16年(2004年)

中越大地震発生。災害対策本部設置。各地区に避難所を開設

長岡市災害ボランティアセンターを設置

山古志村が全村避難

長岡市千歳などで仮設住宅の建設始まる

被災住宅相談窓口を開設

山古志村への一時帰村随時開始

長岡市の小・中学校が授業を再開(一部は8日)。

太田小・中は前川小で、山古志小・中は阪之上小、南中で再開。中野侯小は西谷小、東谷小は栃




平成17年(2005年)

尾南小で再開

天皇皇后両陛下がお見舞いで長岡市・川口町に

長岡市と小国町で仮設住宅への入居始まる(栃尾市は11月27日、川口町は12月2日、越路町は12月7日から)

激甚災害の指定を受ける

全国初、仮設住宅敷地内に在宅介護サービス施設「サポートセンター」開設

山古志村の仮設住宅入村式

上越新幹線全線で運転再開

栃尾市仮設住宅でボランティアによる年越しイベントを開催

復興イベント「がんばろねか!カウントダウン」を開催

仮設住宅に除雪ボランティア

サッカーJリーグコッパ・ドリームチームの選手が子どもたちを激励(12/3、阪之上小学校)

全国から寄せられた応援メッセージ(市民センター)




戻ることを選んだのは 大人だけではない

山古志
山古志に戻り 地域を活性化 榊澤和幸さん



仮設住宅の生活の中で、山古志に戻るか、山を下りて便利な所に住むか、家や高齢者や通学などのことを考えてみんなが葛藤していました。私は子どもたちの気持ちが重要だと思い、当時小学生の3人の息子たちに相談しました。「山古志の学校が再開するけどお前たちはどちらに住みたいか。長岡に住みたいなら、おれたちは通いで農業をしてもいいよ」と。迷うだろうと思っていましたが、3人とも「山に戻る」とほぼ即答でした。

山に戻った後の暮らしは不自由もあるけれど、良いこともあります。子どもたちは「山古志が好き。自分の故郷だ」と堂々としてくれます。それで大人たちも、「何だかんだ言っても山古志はいいよね」と、愛着と誇りを持っています。



▲榊澤さんは、NPO法人中越防災フロンティアでコミュニティバスの運行に携わったり、山古志地域委員会委員長として地域づくりを検討したりと、山古志の未来に向かって取り組んでいます



2月 1日 19日 3月 1日 16日 4月 1日 16日 5月 9日 23日 6月 4日 7月 5日 8月 2日 22日 15日 10日

19年ぶりの大雪(川口町が5日に自衛隊に排雪活動を要請)

震災復興祈願祭「長岡雪しか祭り」と「古志の火祭りさいの神」を開催

県が中越大地震復興基金を設立

長岡市復興委員会を発足。長岡市復興計画策定へ

長岡市と中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町が合併

「ながおか復興音楽祭」など復興イベント開催

山古志地域の仮設住宅近くに生きがい健康農園を開園

花いっぱいフェアで仮設住宅地内の広場に市民が花植え

災害時における緊急放送に関する協定をFM新潟と締結



川口町小高地区の住宅移転決まる

り災者公営住宅(上除町)の建設に着手

山古志地域などの避難指示・勧告が一部を除き解除

長岡まつりで震災復興祈願花火「フェニックス」打ち上げ(3日も)

平原綾香さん、約40万人を前に「Jupiter」を歌唱

太田・蓬平
蓬平温泉 旅館常務 金内智子さん



旅館の被害は壊滅的で、私はもう営業再開は無理だと思いました。そんな自分の気持ちとは裏腹に、周りの方の後押しで旅館は再開への道を進んでいきます。不安の中で準備を進める私に対して、対応してくれる人の誰かが前向きなんです。その繰り返しの中で、「できるかも」と思うようになれました。全国から支援してくださった方、銀行や業者の方、旅館のスタッフ、地域の人たち…、こんなに大勢の人に支えてもらっているのか、と人の温かさがこれほど身に染みしたのは初めてでした。オープニングセレモニーでたくさんの人と喜びを分かち合えた感動は忘れられません。

太田地区では、復興した姿を大勢の人に見てもらおうと、ブナ林の整備など地区の人の活動が活発になってきています。訪れた人たちに、地域の人との触れ合いやその土地に根付いているものを知ってもらい、ここに住む「人」を感じてもらおうことが私たちの大切な役割だと思っています。

身に染みたくさんの人の温かさ



▲再開した旅館で宿泊客を迎える金内さん

小国・山野田
震災当時、集落総代 江口岩雄さん



山野田集落は小国和紙発祥の地で、盛んだった頃は80世帯以上が住んでいたんです。昭和63年には小国芸術村会館もできました。その後産業が衰退し、地震のときに住んでいたのは9世帯でした。壊滅的な被害を受けた山野田にはもう住むことができず、防災集団移転で4世帯が約4km離れた太郎丸に移り、残り5世帯は長岡の中心部や柏崎に引っ越しました。

でも集落を放棄したわけではありません。現在も、別荘所有者や約30年前に転出した人たちと一緒に、年3回道普請や草刈りをしています。この町内清掃をしているから旧集落内を普通に行き来できるんです。通い農業をしている人は私を含め3人。集落はまだ生きています。山に行くだけで落ち着く気持ちを私は大切にしたいです。

通い農業と町内清掃で 生き続ける旧集落



◀ふるさとへの強い想いが原動力となって活動を続けています

※インタビューは公益社団法人中越防災安全推進機構の協力により作成しました
※年表は主な出来事を掲載しています

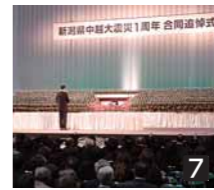
11月17日 30 23 2月 17日 5 3 1 9月 1日 30 28 8月 22 14 7月 29 25

浦瀬町、渡沢町、越路地域・西谷の一部の避難勧告を解除
小国地域・山野田で芸術村会館が再開
民間企業などの7団体と災害時支援協定を締結
中越市民防災安全大学が開校 **11** ページ
濁沢町、越路地域・西谷の避難勧告と、山古志地域・油夫の避難指示を解除
越路中学校が本校舎で授業を再開 **8**
村松町の避難勧告を解除
山古志支所を開設（診療所再開は6日）
太田小・中学校が現地で授業再開
山古志地域を通る国道291号全線開通 **9**
中越防災安全推進機構が設立
「全国闘牛サミットin長岡」。山古志地域で約2年ぶりに闘牛大会を開催 **10**
小国中学校が本校舎で授業再開
中越大震災から2年山古志小・中学校が地元で授業を再開
長岡市防災会議が長岡市地域防災計画原案を了承



平成18年(2006年) 1月1日 4月28日 2月11日 14月 12月28日 10月6日 11月23日 12月5日 10月27日 11月10日 8月11日

長岡市復興計画策定
越路地域・西谷、小国地域・山野田の住宅移転決まる
「復興祈願とちお祭」開催（28日も）
山古志支所現地事務所を開設
栃尾地域・半蔵金の一部の避難勧告を解除
中越大震災から1年の追悼行事を実施 **7**
市地震防災訓練を実施（青葉台）
御山町、濁沢町の一部、浦瀬町の一部の避難勧告を解除
高町、乙吉町の避難勧告を解除
長岡市と和島村、寺泊町、栃尾市、与板町が合併
滝谷町、渡沢町の一部の避難勧告を解除
越路地域・西谷の避難勧告を一部解除
復興住宅（上除町）の鍵を引き渡し（小国地域は20日）



暮らしをもう一度

平成19年(2007年) 3月28日 4月1日 7月1日 10月16日 11月23日

妙見町の県道開通 **11**
映画「マリと子犬の物語」撮影スタート **12**
山古志地域の梶木・木簗・大久保・池谷・榎木で避難指示解除。震災による避難指示や避難勧告は全て解除に
山の暮らし再生機構が設立
川口町で町営バス運行開始
新潟県中越沖地震発生
下小国小学校が仮設校舎で授業再開
川口町で「震災復興おかげ様感謝デー」実施（以降10周年まで実施）
中越大震災から3年。「復興のつどい」で平原綾香さんが歌唱
山古志住民の感謝の気持ちが込められた歌「ありがとう」を合唱（10/21、山古志闘牛場）



復旧から復興へ



農家レストラン「多菜田」五十嵐なつ子さん
これが農家レストラン誕生のきっかけです。
地元の食材を使った素朴な料理は、来訪者や復旧の工事関係者に喜ばれました。一流料亭にはない味を求めて何回も来てくれるお客さんもいます。団体のお弁当やひとり暮らしのお年寄りへの宅配弁当も贈うようになりました。店を始めて母ちゃんたちは元気になりました。すると父ちゃんや子どもたちも元気になって家の中が明るくなりました。その上、お客さんにおいしいと言って食べてもらえることで開業して良かったと思っています。

母ちゃんたちの「ごっつお」は恩返しのおもてなし

被災から3年が過ぎた頃、仲間の茶飲み話で、闘牛場に来たお客さんにおにぎりやみそ汁を出したら、思いのほか喜ばれたことが話題になったんです。「また、あんなことができたらいいね」と盛り上がりました。この茶飲み話と、お世話になった方々への感謝と、苦難を乗り越えて私たちは元気でやっていることを発信したい気持ちが結び付きました。



▲平成20年12月開店。のんびりと笑顔で地域を支えています。東日本大震災の直後に宮城県南三陸町で炊き出しや岩手県大槌町の復興食堂と交流するなど市外、県外との関わりも生まれています



郷土文化の伝承・再発掘で夢のあるいきいきとした町に
地域が元気になるために何から手を付けばいいのかいろいろ考えた結果、私たちが主導で動くのではなく、地域の団体に知恵と人材で協力するのがいいと思い25年前から続けてきました。地域の団体への協力、連携をさらに強化したい思いから、震災後に現在のNPO法人となって活動しています。

栃尾は歴史文化が数多くある土地です。約600人が練り歩く諏訪神社春季大祭の大名行列の傘ぼこを伝承する伝承会の設立や人材協力、他地域との交流、また、栃尾の文化や歴史講演会の開催などさまざまです。もともと小さな祭りだった下来伝の「ほだれ祭」は、県内外に知られるようになりました。祭りを盛り上げることが栃尾の元気につながります。今後もさらに貴重な文化の伝承と再発掘に力を注いでいきたいです。



講師を招き、傘ぼこの講演会を開催。地域の歴史を伝えています

小国・法末 法末自然の家「やまびこ」大橋昭司さん

集落で平成2年から宿泊施設「法末自然の家 やまびこ」を協力して運営しています。
建物は廃校となった小学校を活用し、食事は集落の母ちゃんたちが作る田舎料理、昆虫採集や雪遊びなどのインストラクターは父ちゃんたちが交代で務めています。私たちにあって毎日の暮らしに楽しみをもたらす「地域交流の拠点」でした。
それが震災で使用できなくなり、集落のみんなもほとんどが仮設住宅に入居しました。それでも集落を元気にしよう、「やまびこ復活」を復興の柱に、震災から1年2カ月後に再開したんです。今では年中無休で大変です。でも孫みたいな子どもと遊んだり、若者に山のことを教えるのはとても楽しい。法末で頑張ろうという元気が湧いてくるんです。
宿泊者数は震災前に戻り、みんなの笑顔も戻ってきました。今の目標はその倍の数です。たくさんの人との出会いが震災前以上に集落に活気をもたらしてくれています。



▲小国地域の友好都市・東京都武蔵野市から親子田植え体験の受け入れ

集落を元気にした「やまびこ」の再開

教訓を 活かして

10月23日 平成24年(2012年) 中越大地震から8年

4月21日 復興を想定して改築した宮内中学校で授業スタート

1月10日 アオーレ長岡オープン 小国地域でNPO法人MTNサポートがコミュニティバス運行開始

10月23日 石巻市でミニフェニックス打ち上げ(25年まで)。「長岡まつり前夜祭」の大手通りのフェニックスビジョンで生中継

8月1日 中越大地震から7年。中越メモリアル回廊の3拠点、3公園がオープン(きおくみらいは22日)

12月19日 映画「マリと子犬の物語」山古志体育館で試写会。平原さんが主題歌「今、風の中で」を披露

11月28日 平成19年(2007年) ホテルサンローラ川口の全施設が復旧しオープン

3月31日 平成20年(2008年) 4年ぶりに「古志の火まつり」が復活

7月31日 中越大地震の長岡市災害対策本部を解散

8月26日 山古志地域のNPO法人中越防災フロンティアが会員制のコミュニティバス運行開始

9月8日 中国四川省震災復興日本視察団が長岡市を訪問

10月23日 山古志闘牛場で「トキめき新潟国体」の炬火採火式(10月23日には川口町の震災で)

8月9日 天皇皇后両陛下が長岡市をご訪問(9日も)

10月23日 中越大地震から4年

10月23日 災害を想定して改築した東中学校で授業スタート

10月23日 全国から相次ぐ視察者

10月23日 最新システムを備えたアオーレ長岡の災害対策本部会議室

10月23日 地域の活動団体がアオーレ長岡で発表

10月23日 アオーレ長岡で初開催の「復興のつどい」で復興への想いを述べる森市長

10月23日 平成21年(2009年) 中越大地震から4年

10月23日 災害を想定して改築した東中学校で授業スタート

10月23日 全国から相次ぐ視察者

10月23日 最新システムを備えたアオーレ長岡の災害対策本部会議室

10月23日 地域の活動団体がアオーレ長岡で発表

10月23日 アオーレ長岡で初開催の「復興のつどい」で復興への想いを述べる森市長

ピックアップ・防災

震災は、防災と地域と人の力を強めた

■平成18年7月、災害時に的確な判断をし、行動できる防災リーダーを育成する中越市民防災安全大学が開校しました

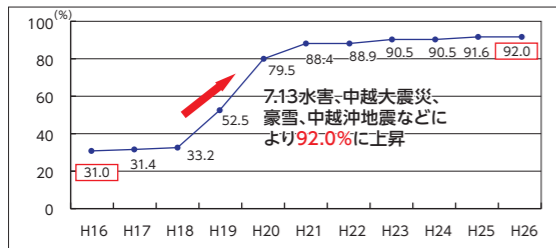
■専門家から防災に関する知識や技術を習得し、これまで385人が卒業。中越市民防災安全士となって、地域の防災リーダーとして活躍しています



▲中越市民防災安全大学での講習

■現在畔上さんが会長を務める中越市民防災安全士会は平成19年に設立。会員の知識と技術、ネットワークを活かして、町内会や自主防災会、行政などと協力し、地域の防災力を高める活動に取り組んでいます

■自主防災会は812地域で結成済み。結成率は91.97%(平成26年9月現在)。震災後の防災意識の高まりから、飛躍的に伸びました



中越市民防災安全士の活動拠点を開設

平成26年6月28日、中越市民防災安全士の事務所を市民防災センター内に新設。自主防災活動などの取り組みの情報交換や自主防災会の立ち上げなどの相談を受ける「防災よろず相談所」を始めました。

青葉台3丁目 中越市民防災安全士会会長 畔上純一郎さん



私が住む青葉台3丁目の自主防災会は平成10年に活動を始めました。防災専門委員を置き、黄色の制服で目立つ工夫をしたり、避難した目印として玄関に掲げる赤い旗を配布したりしました。要援護者を把握した住民台帳や家屋が倒壊したときの進入ルートなどを記した救助カードも作りました。

そして中越大地震が発生。当時私は自主防災会の運営委員長をしていました。私たちは防災センターの小学校に避難しましたが、体育館の鍵がどこにあるか分からないなど問題がたくさん発生して、訓練通りにはならないことを痛感しました。震災は大きな転機となり住民の意識は大きく変わりました。地域の中学生も「防災サポーター」になって、今では頼りがいのある働き手になっています。

防災だけしていても安全で安心して暮らせるまちにはなりません。防災力の向上には日頃の人と人の結び付き、顔の見える関係が大切であり、非常時に威力を発揮するのだと確信しています。



「安全で安心のまちは顔の見える関係から」

畔上さんは震災後に「青葉台3丁目」を結成。「煙草山古志応援団」を立ち上げ、地域の防災活動に力を入れています。また、住民の防災意識を高めるための活動も行っています。

安全で安心のまちは 顔の見える関係から

東日本を支える

10月23日 平成22年(2010年) 長岡市と川口町が合併

4月31日 新消防庁舎で業務開始

10月23日 中越大地震から6年

10月23日 被災した長谷川邸が再開

10月11日 山古志闘牛場リニューアル・天皇皇后両陛下の歌碑を除幕

10月18日 川口町と合同防災訓練

10月23日 中越大地震から5年

10月14日 練14

10月11日 東日本大震災発生

10月11日 秋篠宮同妃両殿下が東日本大震災の被災地からの避難者をお見舞い

10月11日 東日本大震災の避難者を受け入れ(3/19、南部体育館)

10月11日 「多世代交流館になニーナ」主催のもちつき大会

川口 NPO法人くらしサポート 越後川口代表・水落優さん



地域バス、きずな館の運営で 地域活性化に取り組む

ふるさと再生への強い想いで、川口でも多くのグループが立ち上がり、主体的に地域活動に取り組みました。一方で、過疎・高齢化に伴い、地域活動などが続けられるのかという不安も抱えていました。私たち自身が、安心して暮らせるまちづくりをしなければと思い活動を始めたんです。

まず、コミュニティバスの運行。住民の要望は何かを知るために、利用者から直接声を聞いたり、全世帯にアンケート調査を行ったりして運行内容を組みました。その甲斐もあり、多くの方から生活の足として頼りにされています。また、川口きずな館は、全国からの視察はもちろん、住民が気軽に集える地域活性化の拠点を目指しています。地元

の「巧」を講師に、工芸・手芸や食の教室など、地域の人々が主役になれる活動を進めています。これからも、地域の力でまちづくりを進めていきます。



▲「黄色いバス」の運行を平成25年4月から「くらしサポート」が開始

長岡の笑顔を 全国へ

平成25年(2013年)

2月18日 岩手県大槌町の震災がれき本焼却開始(3月13日まで)
20日 大林宣彦監督が、AKB48のミュージックビデオで、東日本大震災の被災地を応援する長岡を描く「So long!」発売
1月1日 川口地域でNPO法人くらしサポート越後川口がコミュニティバス運行開始
7月・8月 豪雨災害発生
7月29日 大槌町の児童を長岡・栃尾に招待(5日まで) 17
10月3日 脇野町小学校児童が岩手県陸前高田市で復興祈願花火の打ち上げ。仮設住宅で被災者と



平成26年(2014年)

4月1日 山古志地域のコミュニティバスが会員制から利用者登録制に
6月1日 「全国植樹祭」で長岡から復興を発信。天皇皇后両陛下がお手播き、お手植え 20
7月13日 「全国闘牛サミットin長岡」開催
8月28日 中越市民防災安全士会が事務所を設置 11ページ
11月23日 中越大震災から9年。やまこし復興交流館おらたるがオープンし、中越メモリアル回廊が完成 15ページ
12月24日 長岡東西道路フェニックス大橋開通 19
復興推進地域づくり委員会を設置



2月3日 10年目の「復興祈願花火フェニックス」打ち上げ 21。
7月13日 水害から10年
8月28日 全士会が事務所を設置 11ページ



市民力で たくましく前へ

10月23日 31 4
「Jupiter」を披露(3日) 22
とちお同住会と交流のある宮城県南三陸町の神割崎仮設住宅の入居者と、北荷頃仮設住宅跡地に交換植樹
山古志地域で「防災運動会」が開催
中越大震災から10年



山古志 やまこし復興交流館おらたる 川上沙織さん

震災当時、私は山古志小学校の6年生でした。突然の地震や避難所での生活は経験のないことばかり。怖いというより、不安な気持ちでいっぱいでした。その中で全国から届いたたくさんの方の温かい支援はとても心強く、今でも深く感謝しています。この頃から困った人を助けられる人になりたいと思うようになりました。大学卒業後は、震災の経験を伝えることができる「やまこし復興交流館おらたる」で働くことを決めました。ここでは案内や説明を通じて、訪れる人に感謝の気持ちを直接伝えられます。そして私をもっと伝えたいことは、山古志に帰って来てみんなが元気で頑張っている今の姿です。このことを全国のみなさんへ発信することも私の大事な役割だと思っています。

伝えたい感謝の気持ち
見たい今の山古志

▲「おらたる」で、震災の経験と山の暮らしを来館者に伝える川上さん(中央)

川口・竹田 Iターンで集落に移住 砂川祐次郎さん

移住して17年 頑張らず、ゆっくりと

田舎暮らしに憧れ、平成7年に埼玉県川口市から引っ越してきました。当時たまたま竹田集落を訪れ、景色も素晴らしくて温泉も近くにあって、一目で気に入ったんです。今は観光施設に勤める傍ら、絵を描いて生活しています。震災のときには近所とかなり仲良くなっていました。元の生活を取り戻す過程でさらに集落内のつながりが強まったように思います。壊れた遊歩道を集落で修復したり案内看板を作ったりしたんですが、私は看板の下絵を描きました。みんなで心を一つにしながら「できる人ができる範囲で。頑張ろうと言わないにしよう」と言い交わし、ゆっくり取り組んだのが良かったですね。集落では近所のばあちゃんから野菜などをもらえるし、回覧板を持って行って半日も茶飲み話ができる。たまに早く帰宅すると「昨日は早かったね」と言われる。この距離感が僕にはちょうどいいんです。雪が多いのも人が少ないのも、全て気の持ちようですね。

▲川口さずな館でも、地域の元気を発信する絵を描く砂川さん

栃尾・一之貝 一之貝集落協定・代表 茨木徹夫さん

農村暮らしを体験しに 首都圏の大学生が来た

平成21年、首都圏の大学生から「復興の調査や農業体験などがあるので2週間ほど協力してほしい」と話がありました。私たちは何をすればいいかわからないし、付き合い方もわからない、面倒だというのが正直な気持ちでした。4人の学生が来て、農作業を手伝ったり、被災経験を質問したりしていきました。私はこの年限りだと思っていたんですが、田舎の生活を体験した彼らには何か感じるものがあったようです。翌年には別の学生が来て、結局今年で6年目になりました。学生が後輩に農村の良さを伝えて年々人数も増え、延べ約100人になります。最初の学生は今でも来てくれます。今では受け入れ体制を整え集落で歓迎しています。知人の空き家を借りて学生が自炊できるようにしたり、野菜や漬け物を届けたりしてね。若い世代が少ない集落だから、元気な若者が来るとにぎやかでいい刺激になります。これからも楽しみながら交流を続けたいですね。

▲学生からは農村体験で感じた地域の魅力や地域づくりへの提案の発表も



PHOENIX PROJECT

みんなであげよう 10・23

「フェニックスプロジェクト」は「市政だより10月号」4・11・25ページもご覧ください

10月 復興イベント

23日(木)

■新潟県中越地震10周年合同追悼式
時午後1時～2時30分 場アオーレ長岡 内黙とう、献花、子どもたちの合唱など 関地域振興戦略部 ☎39・2515

■中越地震10周年復興の集い
時午後4時～7時15分 場アオーレ長岡 内復興の灯り、炊き出し、防災展示など 関地域振興戦略部 ☎39・2515

■フェニックスコンサート
平原綾香さんの歌とトークを通して、復興への感謝と10年間の想いを共有します（※入場整理券の申し込みは終了）。
時午後7時15分～8時（開場午後6時）
場アオーレ長岡 関フェニックスコンサート実行委員会事務局（市民協働推進室内） ☎39・2288

★山古志・川口・アオーレを3元中継

3会場の追悼・復興イベントを映像で結びます。

★平原綾香さん・小林幸子さん・沢田知可子さんからのメッセージ
15ページをご覧ください

23日以外

■中越地震10周年 復興祈念フォーラム「復興10年 地域の未来をひらく」
時18日(土)午後1時～4時 場アオーレ長岡 内鳥越俊太郎さんの講演、パネルトークなど 関8日(水)までに地域振興戦略部 ☎39・2515へ

■震災10周年牛の角突き大会 山古志
時19日(日)正午～午後4時 場山古志闘牛場 関山古志支所産業建設課 ☎59・2343

■とちお同住会・半蔵金区・IVUSA 震災10周年復興記念式典 栃尾
時25日(土)午後5時～8時 場旧半蔵金小学校 関社会福祉協議会栃尾支所 ☎52・5895

■震災復興おかげ様感謝デー「よってげ亭ふれあい市」川口
時19日(日)午前10時～午後2時 場本町通商店街 ※17日(金)～27日(月)は支援への感謝と東日本大震災の被災地を応援する気持ちを込めた黄色い旗を本町通に掲げます 関川口支所地域振興課 ☎89・3111

■つなごう山古志の心！ 山古志
～あの日の想いをつなぐ～
時午前9時～午後8時 場山古志体育館など 内小林幸子さんコンサート（7時15分から）、ありがとう広場（特産品販売、錦鯉展示など）、復興の灯り、バルーンリリースなど 関山古志支所地域振興課 ☎59・2328

■～あの日を忘れない～ 川口
追悼・感謝・防災の集い
時午後4時～8時 場川口公民館 内沢田知可子さんコンサート（7時15分から）、灯りイベント、炊き出し訓練など（※整理券が必要） 関川口支所地域振興課 ☎89・3111

■ソングオブジアース2014 川口
時午後3時～8時 場川口運動公園 内式典、メッセージキャンドル、バルーンリリースなど 関NPO法人にいがたからみんなえがおに ☎89・3627

★11地域で慰霊の花火「白菊」を打ち上げ
発災時刻の午後5時56分前後に、白菊を長岡地域（大手大橋下流）、全支所地域（場所などは「支所からのお知らせ」をご覧ください）で打ち上げます。

■企画展「災害と復興をかたりつぐ」
10月21日(火)開設の「長岡市災害復興文庫」を中心に「被災した歴史的資料の救済」と「震災関連資料の収集」の取り組みを紹介しします。
※「長岡市災害復興文庫」は、所蔵する避難所の記録や被災歴史資料などを再編成した全国初の試みです
時21日(火)～30日(木)午前10時～午後6時（27日(月)は休館） 場中央図書館
★ワンポイント展示解説もあります
時22日(水)・23日(木)・25日(土)・26日(日)・28日(火)午前11時から（30分程度）
関文書資料室 ☎36・7832

■越後みしま 竹あかり街道 三島
～ともそうよ ころろひとつに 竹あかり～
竹灯籠2万5千個とLED照明50基が1kmの沿道を照らします。コンサートや屋台村もあります。
時25日(土)午後4時～9時 場脇野町本町通り ※三島支所の駐車場をご利用ください。会場までシャトルバスを運行します 関三島ライトアップ実行委員会事務局（三島支所産業建設課内） ☎42・2249
★てんこもり号臨時便をご利用ください
行きアオーレ長岡発15:30、17:30
帰り脇野町バス停発19:00、20:00、21:00

